

# 「旧吹屋小学校校舎」平成～令和の大修理！

— 令和4年4月一般公開への道のり ④ —

☎社会教育課 ☎ 21-1516

## 建物の構造を補強し完成へ

これから柱や梁など、さまざまな部材を元どおりに組み立てますが、安全に校舎を活用するには建物強度を高めることが必要です。

文化財に適した工法を検討した結果、土壁の下地に耐震性能が高いパネルを使用し、特に本館にはコンクリート基盤をがっちり抱え込み、2階天井に届く鉄骨フレームを壁内の2箇所<sup>すしぶ</sup>に設置しました。また、屋根の重さを軽くするために、瓦は基本的に筋<sup>すしぶ</sup>きで葺きました。

その後、壁や建具、内装の仕上げ、さまざまな設備などの設置を経て、いよいよ完成です。(次回へ続く)



鉄骨と荒壁パネルによる補強



屋根トラス(骨組み)の再構築



土の量を減らした筋葺き



壁の漆喰塗仕上げ



## 「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑱

日本遺産に認定された『「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—』のストーリーを構成する文化財を紹介します。

### きゅうふき や おうらい 「旧吹屋往来」 未指定記念物(遺跡地)

吹屋往来は、成羽<sup>びん</sup>と備後<sup>びんご</sup>東城<sup>とうじょう</sup>(現在の広島県庄原市東城)を結ぶ旧道です。吹屋はその中継地として賑わい、多くの商家が軒を連ねました。江戸から明治時代にかけて、銅・弁柄・鉄の特産品や米・薪炭<sup>しんたん</sup>などが、吹屋から牛馬の背で成羽河岸へ運ばれ、そこから高瀬舟で玉島港(現在の倉敷市玉島)へ下ろされ、全国各地へと出荷されました。

また、この往来は「とと道」(「とと」は「魚」のこと)とも呼称され、瀬戸内海の鮮魚や塩などの海産物が山間部に運ばれたことを物語っています。旧道の路傍には、道標<sup>みちしるべ</sup>の役割を担った常夜灯や牛馬の供養塔がひっそりと建ち、往時をしのばせています。



旧吹屋往来  
(成羽町羽山付近)



成羽河岸場跡の常夜灯  
(成羽町成羽の古町付近)

☎高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257